

2025（令和 7）年 5 月 30 日

東京都千代田区四番町 5 番地 3
科学技術振興機構（JST）
Tel：03-5214-8404（広報課）
URL <https://www.jst.go.jp>

経済安全保障重要技術育成プログラム（K Program）における 新規採択課題の決定について（2024 年度第 1 回募集）

JST（理事長 橋本 和仁）は、内閣府および文部科学省が定めた研究開発構想を受け、経済安全保障重要技術育成プログラム（K Program）における新規採択研究開発課題を決定しました。

K Program では、中長期的に日本が国際社会において確固たる地位を確保し続ける上で不可欠な要素となる先端的な重要技術を育成するため、国が定めた研究開発ビジョンや研究開発構想に基づき、研究開発を実施します。JST では研究開発構想（プロジェクト型）に関してはプログラム・ディレクター（PD）が、研究開発ビジョンの達成と研究開発構想の実現に向けて、研究開発課題の実施を指揮・監督します。実施に当たっては、研究開発課題提案の募集を行い、PD が外部有識者らの協力を得ながら選考を行います。なお、公正で透明な評価を行う観点から、JST の規定などに基づき、利益相反マネジメントを行います。

今回、以下のプロジェクト型の研究開発構想について、研究開発課題を採択しました（別紙 1）。

「デジタル技術を用いた高性能次世代船舶開発技術及び船舶の安定運航等に資する高解像度・高精度な環境変動予測技術」

今後、研究開発ビジョンの達成と研究開発構想の実現に向けて、より効果的・効率的な研究開発となるよう、採択された研究開発課題の研究代表者は、PD の指揮の下、応募時の研究開発計画の見直しおよび具体化など、研究開発の詳細計画の作り込みを行った上で研究開発を開始します。

詳細は K Program のウェブサイトをご覧ください。

URL：<https://www.jst.go.jp/k-program/>

事業概要 <https://www.jst.go.jp/k-program/about/index.html>

課題概要 <https://www.jst.go.jp/k-program/program/index.html>

<添付資料>

別紙 1：採択研究開発課題一覧

別紙 2：評価者一覧

参考 1：経済安全保障重要技術育成プログラムの事前評価における選考の観点

参考 2：経済安全保障重要技術育成プログラムにおける研究開発課題募集の概要

<お問い合わせ先>

科学技術振興機構 先端重要技術育成推進部

〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-1-7 九段センタービル

小林 正 (コバヤシ タダシ)

E-mail : k-program_koubo[at]jst.go.jp ※お問い合わせは電子メールでお願いします。

<科学を支え、未来へつなぐ>

例えば、世界的な気候変動、エネルギーや資源、感染症や食料の問題。私たちの行く手にはあまたの困難が立ちはだかり、乗り越えるための解が求められています。JST は、これらの困難に「科学技術」で挑みます。新たな価値を生み出すための基礎研究やスタートアップの支援、研究戦略の立案、研究の基盤となる人材の育成や情報の発信、国際卓越研究大学を支援する大学ファンドの運用など。JST は荒波を渡る船の羅針盤となって進むべき道を示し、多角的に科学技術を支えながら、安全で豊かな暮らしを未来へとつなぎます。

JST は、科学技術・イノベーション政策推進の中核的な役割を担う国立研究開発法人です。

採択研究開発課題一覧

研究開発構想（プロジェクト型）

「デジタル技術を用いた高性能次世代船舶開発技術及び船舶の安定運航等に資する高解像度・高精度な環境変動予測技術」

研究開発課題名	研究代表者（所属・役職）	研究開発概要
<p>持続的で競争力に優れる海事産業のための統合シミュレーション・プラットフォームの構築（仮称）</p>	<p>安藤 英幸 （株式会社 MTI 取締役）</p>	<p>今後、船舶需要の中心は温室効果ガス排出削減のための代替燃料利用、風力推進ほかの省エネ技術、自動運航をはじめとする高度な統合制御システムを採用した高性能次世代船舶へと移行します。日本の海事産業は、労働人口が減少する一方で世界的な需要拡大に伴う建造能力拡大も求められており、性能が高度化・複雑化する次世代船舶を短期間に開発・供給する能力を獲得する必要があります。このための方策として、本研究開発課題では初期の開発、設計段階で、建造、運用のライフサイクルとサプライチェーンを同時並行的に考慮して、本船仕様、建造計画を最適化する「統合シミュレーション・プラットフォーム」を構築し、バーチャル・エンジニアリングの手法の海事産業への導入を推進します。また、船舶の安全な運用に影響を与える気象・海象の予測についても、台風などの極端現象を含む 1～3 カ月先までの季節予測技術を確立し、統合シミュレーション・プラットフォームに組み込みます。</p>

※研究開発課題名は調整により変更になることがあります。

評価者一覧

研究開発構想（プロジェクト型）

「デジタル技術を用いた高性能次世代船舶開発技術及び船舶の安定運航等に資する高解像度・高精度な環境変動予測技術」

	氏名	所属・役職
プログラム・ディレクター（PD）	高木 健	元 東京大学 教授
分科会委員	稗方 和夫	東京大学 大学院新領域創成科学研究科 教授
	福井 健一	関西大学 ビジネスデータサイエンス学部 教授
	藤井 陽介	気象庁気象研究所 全球大気海洋研究部 主任研究官
	藤久保 昌彦	大阪大学 名誉教授 広島大学 名誉教授
	見延 庄士郎	北海道大学 大学院理学研究院 教授
	三好 建正	理化学研究所 計算科学研究センター データ同化研究チーム チームリーダー
	山本 悟	東北大学 大学院情報科学研究科 教授

（五十音順、敬称略、所属・役職は 2025 年 5 月時点）

経済安全保障重要技術育成プログラムの事前評価における選考の観点

1. 研究開発ビジョンの達成および研究開発構想の実現に向けた達成目標の妥当性並びに多様な分野における研究成果活用の実現可能性
2. 研究開発課題の達成目標に向けた実施内容の妥当性
 - ・ 研究開発項目・内容
 - ・ 実施体制
 - ・ 研究資金計画
 - ・ 安全管理措置の計画

※ 安全管理措置とは、研究開発に関する情報を適切に管理するための措置や、機微な情報に対する守秘義務履行のための必要な措置をいいます。

経済安全保障重要技術育成プログラムにおける 研究開発課題募集の概要

1. 事業の趣旨

K Programでは、中長期的に日本が国際社会において確固たる地位を確保し続ける上で不可欠な要素となる先端的な重要技術について、経済安全保障推進会議および統合イノベーション戦略推進会議が定めた研究開発ビジョンの実現に向け、内閣府および文部科学省が定めた研究開発構想に基づき、研究開発を実施します。

また、K Programは経済安全保障推進法における特定重要技術の研究開発の促進およびその成果の適切な活用を目的とする事業に位置付けられています。

2. 事業の特徴

研究開発構想には、重要技術の獲得を目指す比較的大規模な研究開発プロジェクトの研究開発構想（プロジェクト型）と、重要技術となり得る要素技術や研究開発プロジェクトの高度化に資する要素技術などの獲得を目指す個別研究の研究開発構想（個別研究型）があります。

研究開発構想（プロジェクト型）に関してはプログラム・ディレクター（PD）が、研究開発構想（個別研究型）に関してはプログラム・オフィサー（PO）が、研究開発ビジョンの達成および研究開発構想の実現に向けて、研究開発課題の実施を指揮・監督します。

また、関係府省との情報共有や意見交換などの場として協議会が設置される予定です。

3. 募集期間

2024年度第1回募集：2024年4月16日（火）～2024年6月25日（火）正午

4. JSTが研究開発課題を募集する研究開発構想

プロジェクト型

「デジタル技術を用いた高性能次世代船舶開発技術及び船舶の安定運航等に資する高解像度・高精度な環境変動予測技術」

PD：高木 健（元 東京大学 教授）

以上